

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	社会のよき形成者となるため、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求し、勤労を尊び、郷土を愛し、人間性豊かな、元気はつらつとした『新しい時代を主体的に切り拓く若人』を育成する。
(2) 現状と課題	下北の全域から生徒が集まっており、地域と連携したキャリア教育を核に、勉学や部活動を通じて充実した高校生活を送るため努力する生徒達である。また、広く社会に目を向け、勤労貢献でき、社会に参画する一員として活力ある人材の育成および工業技術者としての資質を備えた人材の育成を目指している。
(3) 重点目標	1 学習指導の充実(確かな学力の育成) 2 生徒指導の充実(豊かな人間性の育成) 3 キャリア教育の充実(自己理解・自己管理能力の育成) 4 開かれた学校づくり(保護者・地域との連携・積極的な情報発信)
(4) 結果の公表	評価項目、結果の内容等をまとめた資料を作成し、PTA総会で説明を行い公表する。さらに、本校ホームページでも同様の資料を公開する。

学校整理番号	38
学校名	青森県立むつ工業 高等学校
全日制の課程	
自己評価実施日	令和 8年 1月 16日(金)
学校関係者評価実施日	令和 8年 2月 4日(水)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
学校評議員	4名
PTA会長	1名
PTA副会長	3名
いじめ防止専門員	1名
計	9名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導	①教育課程の適正な運営と研究を行い、学習意欲を高め主体性や理解力の向上のための授業実践、および学習指導の工夫と改善を推進する。 ②生徒の基礎的・基本的な知識・技術の定着を図るため、ICTによる朝学習の有効活用および到達度の検証から、生徒に目的意識を抱かせた学習活動を定着させる。	①課題研究プロジェクトチームの探究活動を通じて、学科横断による主体的な学習活動を実践することができた。 ②朝学習の成果としては、多少ではあるが全体として向上し、課題以外の内容に取り組む生徒も増加傾向にある。また、進学志望者対象に講座を提供し活用することができた。	A	①学科横断による探究学習は非常に貴重な機会であり、特色ある取り組みがあるのでぜひ継続してほしい。 ②ICTによる学習は、企業の資格講習などでも取り入れており、ぜひ続けて実施してほしい。	①課題研究プロジェクトチームのほとんどは長年継続したテーマであるため、生徒による新たな課題提起を促すことを推進したい。 ②学習活動を面倒に感じている生徒が半数近くいる。あまりに義務化しても生徒の自学自習の意識向上につながらない懸念があるため、主体性の醸成が課題である。
2	生徒指導	①基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性を育成する。 ②適正な規範意識を涵養し、いじめや事故・非行の未然防止に努める。	①声がけを続けたことで、生徒から話しかけてくるようになり、多くの生徒と少しずつコミュニケーションをとることができた。 ②校内外の巡視を計画的に実施できた。またアンケートや個別相談からいじめを早期発見することができ、組織的に対応できた。	B	①生徒との普段からのコミュニケーションは学校生活の根幹となる部分であると思うので、大切にしてほしい。 ②いじめ等に対しては、引き続き素早く対応し、丁寧に対応して欲しい。	①スマートフォンの扱いやSNSの適切な使い方が課題である。今後も指導を継続していきたい。 ②いじめ等の早期発見をした場合の学年の対応をもっと適切に進められるようにしたい。
3	キャリア教育	①各学年ごとに適切なキャリア教育を計画し、将来、社会的・職業的自立ができるよう必要なキャリア教育の推進を図る。 ②職業観育成と地域企業とのつながりを深めるため、企業見学やインターンシップを積極的に実施する。	①各学年ごとに企業見学をはじめとするキャリア教育を推進し、年度末には地域の中学・高校・官庁・企業が参加し、キャリア教育に関する生徒実践発表会を実施できた。 ②本校の特色である企業公募型によるインターンシップを実施し、生徒と企業が主体的に活動できた。	A	①地域を巻き込んだキャリア教育に関する生徒実践発表会は、若年者の地域定着の観点からも素晴らしい取り組みであると思う。 ②インターンシップへの参加を希望する企業が増えているのは、とても良い傾向であると思う。	①今年度初めて開催した生徒実践発表会については、その運営方法等を見直し、次年度につなげていきたい。 ②企業公募型インターンシップについては、進路指導部だけに負担がかからないように、学科との連携も強化したい。
4	開かれた学校づくり	①工業科における地域との協同研究等を推進し、その成果について積極的に校外で発表する。 ②体験入学・学校公開・学校説明会により本校教育活動を周知する。 ③ホームページの充実を図り、情報発信を行う。	①今年度は風間浦村、下北ジオパーク、海洋研究開発機構、(株)永木精機と共同研究等を行うことができた。 ②当初の計画通り、体験入学・学校公開・学校説明会を実施することができた。 ③今年度はホームページの内容の充実及び更新作業の迅速化に努めることができた。	B	①今年度新たに連携協定を結んだ風間浦村との取り組みは、今後が楽しみである。 ②学校のPR活動はぜひ積極的に続けてほしい。 ③一般の人たちが学校の情報を得ようとするとはやはりホームページになるので、常に最新の状態になるようにしてほしい。	①次年度もさらなる連携強化を図っていきたい。 ②次年度、統合校の募集となるが、説明会の機会があれば対応できるよう準備したい。 ③学校HPは外部の方にとって一番の情報源であることを踏まえ、専任を擁立したい。

(11) 総括	生徒・保護者による学校評価アンケートでは、総合評価として、「特色ある学校づくりがなされている」、「本校に入学して良かった」という項目について高い評価を得ており、本校の目指す教育活動が生徒・保護者にもある程度理解されているものと評価できる。特に今年度は、初めて地域の中学・高校・官庁・企業を巻き込んだキャリア教育に関する生徒実践発表会を実施できたことが大きな成果の1つである。これは、これまでに積み上げてきたキャリア教育の実績があるからこそできたことであり、その成果は今年度「キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰」受賞という形でも表われている。今後、本校が下北地域の体系的なキャリア教育推進の中核となるよう、引き続き地域と連携した活動に取り組み、新しい時代を主体的に切り拓く若人を育成していきたい。
---------	--